

A

2025

JANUARY

[第2028回]



戦争の愚かしさと悲惨さに向き合う

# ドミートリ・ ショスタコーヴィチ

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

20世紀を代表するソビエト連邦の作曲家。検閲や言論統制のある政治体制のもと、自分の信念と体制の意向との板ばさみのなかで作品を書いた。苦悩や風刺精神、暗いユーモアに、ヒューマニズムが滲む作風は、20世紀という時代やソビエト連邦の体制を色濃く反映している。戦争や侵攻で命が踏みにじられるのを目の前にし、戦火のなかで書き進められた《交響曲第7番「レニングラード」》は、いま私たちに何を語りかけるのか。

## レニングラード攻防戦

第2次世界大戦の独ソ戦で激戦となった都市攻防戦。ヒトラー率いるナチス・ドイツ軍がソ連第2の都市レニングラードを完全に包囲し、市民約300万人を巻き込んだ戦いは苛烈を極めた。封鎖されたレニングラードでは多くの人が飢えて命を落とす凄惨な状況となり、寒波や病気も重なって1日に2万人もの死者を数えたこともあるという。



防火ヘルメットをかぶり  
消防任務につくショスタコーヴィチ  
イラストレーション: ©IKE